

東日本大震災発生以後の1年を顧みて②

吉水岳彦氏（ひとさじの会）

上伊那青年仏教界、地域にある檀家さんに声をかけて、お寺から資金や資材などを集めて、4日目に支援に入っていた

直接支援ではなく、情報を提供していった

避難所からニーズを聞いて、NPOなどに情報提供する。被災地の僧侶と共に避難所などに入って行った。

金沢豊氏（浄土真宗本願寺派教学伝道研究センター研究員）

超宗派の活動への、情報交換、共有

①無料宿泊場所の提供

②仮設集会所におけるイベント企画

③仮設住宅訪問活動

この3つが共有、情報交換できること

マスコミと地元住民との気持ちの乖離

- ・陸前高田のシンボリックな場所の撤去について
- ・慰霊祭には、参加できなかった
- ・お茶飲みに参加したいけど出来ない

電話窓口業務への人的支援要請

心の相談室への支援要請

鈴木哲司氏（熊野神社）救急救命

maximam of maximam →アメリカで311以降出来たこと  
教団の承認プロセス→ICSになってない

災害の時には、宗教や自衛隊などの問題が表面化される  
行政には、形として宗教が役立つということを示すべき  
今後の災害への旗振りが、宗援連ではないか

西川勢二氏（真如苑東日本大震災復興支援センター責任者）

京都伝統工芸の団扇を京都の小学生が作成し、被災地へ  
信者向けのサポート

真如苑としては、本来檀家寺での葬式を求めているが、寺院が被災していることから、  
法要を行った（お布施などは貰わない）

SeRV活動は、継続していく

傾聴ボランティアを継続中

林里江子氏（カトリック）

ベースキャンプ→全国の教会がそこに支援物資などを送る  
自然発生的なもから、ボトムアップしていった  
HP上でボランティアを募り、釜石ベースへFace to face  
SNN、インターネット宣教（取材）、情報発信  
CLC、イグナチオによる精神修養のシンボリック団体  
信仰を持つ者として、どのように震災に係わるか（宗教者ではなく）  
ボランティアに向かう人への支援をしていた（後方支援への報告）  
カリタスジャパンのボランティアには、宗教を関係なく行っている  
支援中に、ボランティアの中に高い次元のものを感じる（たとえば神）

渡辺一城氏（天理教・天理大）

天理教教会本部の動き  
災救隊、東北三県に7箇所の宿营地  
行政からの委託作業  
ひのきしん隊の活動は、活動の一部  
各教会ごとによる活動、帰宅困難者への支援など  
教区や支部単位での活動、大阪教区は宮城に家を借りて支援  
現在とりまとめ最中である  
学校関係の支援、天理高校第二部から耕作した野菜を被災地へ届けている  
おたすけの心とひのきしんの伝統が1つになった活動  
行政と災救隊との信頼関係  
教団内の多角的支援活動  
報恩感謝の実践としてのひのきしん、その態度